

# 第3章 計画の基本理念と計画体系

## 1. 基本理念

今期計画中に、団塊の世代が全て75歳以上になる2025(令和7)年を迎えますが、団塊ジュニア世代が65歳以上となる2040(令和22)年を見据え、高齢者が元気で自立した生活を営むことができるよう支援をすることが一層重要となっています。

第8期までは、地域包括ケアの推進を目標に「高齢者が、健康でいきいきと、住みなれた所で暮らし続けられるまち」を掲げてきましたが、従来の考え方を踏襲しつつ、高齢者自身が健康長寿の幸せを実感でき、そのようなまちをみんなで創る、共生社会の実現を目指す表現としました。

### 健康長寿の幸せを実感できるまちをみんなで創る

## 2. 基本目標

### 基本目標 1 健康でいきいきと喜びのある暮らし

高齢者が健康長寿を実感し、いきいきと喜びのある暮らしを送るために最も重要なことは、病気や要介護状態にならないように、日頃から健康づくりや介護予防に自らが取り組む意識や姿勢です。高齢者一人ひとりが自身の健康を守ることを意識しながら主体的に健康づくりに取り組めるよう、支援します。特に高齢期の自立に影響が大きいフレイル(虚弱)予防に着目し、誰もが簡単にできる歩行や栄養強化、外出や社会参加を推進します。

### 基本目標 2 必要な介護サービスがある安心な暮らし

高齢者が病気や要介護状態になっても希望する暮らしが続けられるよう、地域包括ケアシステムを推進しています。特に2025(令和7)年以降は現役世代の減少が顕著となり、介護分野で働く介護人材の確保や、ICTの導入による業務効率化等介護サービス基盤を整備していく対策が重要です。心身の状態にあった必要なサービスを受けられるよう、介護人材の確保や、働きやすい職場環境、働きがいなどの人材定着の対策を検討します。

### 基本目標 3 みんなで共に支え合う、交流のある暮らし

個人や世帯が抱える生きづらさやリスクが複雑化・多様化しており、その支援も個別性が極めて高く、非常に難しい対応が求められます。老老介護や認認介護、虐待や8050問題、ケアラー対応など多様化しており、連携し継続した取り組みが重要です。

これからは年代や属性、支え手や受け手といった関係を超えて、支えたり支えられたりしながら、役割を持ち孤立しない体制づくりにむけ検討します。

### 3. 日常生活圏域の変更

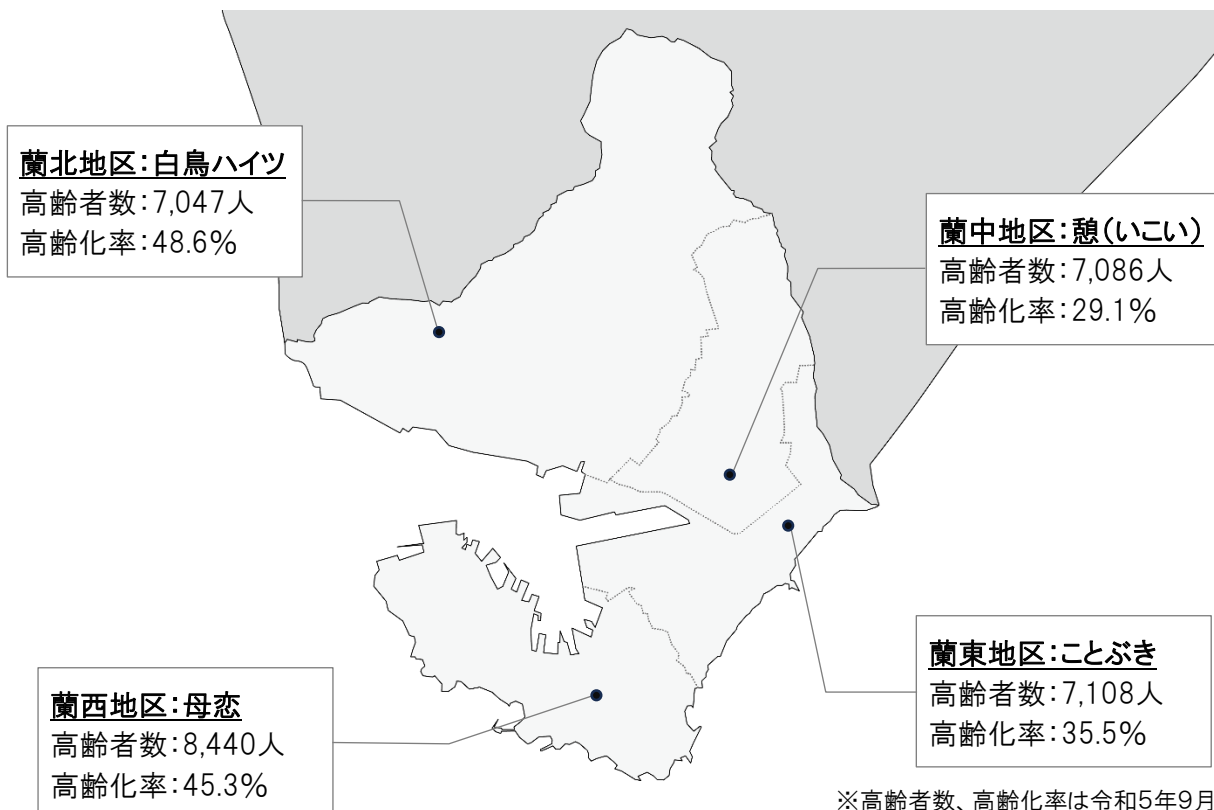
#### (1) 日常生活圏域の変更について

室蘭市では、2006(平成18)年度から、市内を4つの日常生活圏域に分け、それぞれの圏域に地域包括支援センターを設置し、身近な地域で相談や支援、介護サービスが受けられるように体制の整備を進めてきました。しかし圏域設定後17年が経過し、圏域毎の高齢化の進行に差が生じており、今後の高齢者の推移や立地適正化計画などのまちづくりの観点もふまえ、以下のとおり圏域の変更をします。

日常生活圏域 担当の包括支援センター	日常生活圏域(町名)
蘭北地区 担当：白鳥ハイツ	港北町、柏木町、本輪西町、幌萌町、神代町、香川町、陣屋町、白鳥台、崎守町、石川町
蘭西地区 担当：母恋	絵鞆町、祝津町、港南町、増市町、小橋内町、築地町、緑町、西小路町、沢町、幕西町、海岸町、中央町、常盤町、清水町、幸町、本町、栄町、舟見町、山手町、入江町、茶津町、新富町、母恋北町、母恋南町、御前水町、御崎町
蘭東地区 担当：ことぶき	大沢町、輪西町、みゆき町、東町、寿町、日の出町、高砂町
蘭中地区 担当：憩(いこい)	中島町、中島本町、高平町、八丁平、知利別町、宮の森町、 <b>水元町</b> 、 <b>天神町</b>

※太字標記が変更のあった町

#### 【室蘭市内の4つの日常生活圏域と担当の地域包括支援センター】



※高齢者数、高齢化率は令和5年9月末時点

## 4. 計画の体系

第9期計画では「自ら介護予防や健康づくりに取り組み、元気はつらつな姿」、「高齢期に必要なサービスが利用できる」、「みんなで参加 認め合う暮らし」を本計画のめざす姿とします。

	理念	基盤	基本目標	めざす姿	計画目標 (2024-2026年度)
室蘭が好き。みんなで創る、住み続けたいまち ～まちひとみなとが未来を創る～	健康長寿の幸せを実感できるまちをみんなで創る	地域包括ケアシステムの推進	<b>【基本目標1】</b>  健康でいきいきと喜びのある暮らし	自ら介護予防や健康づくりに取り組み、元気はつらつな姿	○介護予防・健康づくりの推進
			<b>【基本目標2】</b>  必要な介護サービスがある安心な暮らし	高齢期に必要なサービスが利用できる	○介護サービスの充実  ○介護人材の確保  ○介護人材の定着
			<b>【基本目標3】</b>  みんなで共に支え合う、交流のある暮らし	みんなで参加認め合う暮らし	○支え合いの地域づくり



具体的取組	評価指標	使用データ
<ul style="list-style-type: none"> <li>●歩行とタンパク質の効果的摂取方法の普及啓発</li> <li>●フレイルに関する講話と計測の実施</li> <li>●通いの場(えみなメイト)の実施会場の維持と、参加者数の増加のため、室蘭市公式LINEの活用等による周知を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●運動器機能の低下「なし」の割合を90%以上に増やす</li> <li>●幸福度 7.1点より上げる</li> <li>●えみなメイトの会場数と参加者数 27会場800人目標</li> <li>●くじらん健康ポイントカード利用者数 4,000人目標</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護予防・日常生活圏域ニーズ調査</li> <li>●えみなメイト実績</li> <li>●くじらん健康ポイント実績</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症対応型共同生活介護増設</li> <li>●若年層(学生)、他業種人材層、シニア層への「介護の魅力」発信、求職者と事業者のマッチング等の人材確保支援を実施</li> <li>●介護職員がやりがいを持って働き続けられる環境作り、介護職の質の向上や定着に向けた研修機会創設、情報共有環境の整備等の定着支援を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症対応型共同生活介護を2025(令和7)年度1カ所増</li> <li>●計画期間内での新たな人材確保支援事業を実施</li> <li>●計画期間内での新たな定着支援事業を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設増の実績</li> <li>●人材確保支援事業の実績</li> <li>●定着支援事業の実績</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症行方不明者検索について、アプリの導入など新しい検索方法を検討</li> <li>●年代や属性によらない支援ができるよう、関係機関の連携とスキルアップの研修会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●認知症に関する相談窓口「知らない」と答えた人の割合を60%に減らす</li> <li>●閉じこもり傾向が「あり」の割合を20%に減らす</li> <li>●オレンジカフェ参加者数を400人に増やす</li> <li>●相談会、連携会議やスキルアップの研修を年1回以上開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●介護予防・日常生活圏域ニーズ調査</li> <li>●オレンジカフェ(認知症カフェ)実績</li> <li>●会議や研修の実績</li> </ul>